【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和4年2月24日(2022.2.24)

【国際公開番号】WO2019/149583
【公表番号】特表2021-512201(P2021-512201A)
【公表日】令和3年5月13日(2021.5.13)
【出願番号】特願2020-542068(P2020-542068)
【国際特許分類】
C08G 18/00(2006.01)
C08G 18/42(2006.01)
C08G 18/40(2006.01)
C08G 18/18(2006.01)
C08G 63/16(2006.01)
C08G101/00(2006.01)
【FI】
C08G 18/00 F
C08G 18/42 083
C08G 18/40 018
C08G 18/18
C08G 63/16
C08G101:00

【手続補正書】
【提出日】令和4年1月20日(2022.1.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（ａ）ポリイソシアネート、
（ｂ）イソシアネート反応性基を有するポリマー化合物、
（ｃ）触媒および任意に
（ｄ）発泡剤、
（ｅ）鎖延長剤および／または架橋剤および
（ｆ）助剤および／または添加物質
を混合して反応混合物を提供し、前記反応混合物を反応させてポリウレタンを提供することを含むポリウレタンの製造方法であって、前記ポリマー化合物（ｂ）は、酸成分とアルコール成分との重縮合によって得ることができるポリエステルオール（ｂ１）を含み、前記酸成分は、マロン酸および／またはその誘導体を含み、前記アルコール成分は、４～１２個の炭素原子を有する脂肪族ジアルコールを含む、製造方法。
【請求項２】
前記酸成分が、マロン酸および／またはその誘導体に加えて、６～１２個の炭素原子を有する１種以上のさらなるジカルボン酸またはそれらの誘導体を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
酸成分の総含有量に基づくマロン酸および／またはマロン酸誘導体の含有量が２０～１００モル％である、請求項１または２に記載の方法。

【請求項４】
前記ポリエステルオール（ｂ１）の数平均分子量が７５０ｇ／モルより大きい、請求項１から３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
前記ポリエステルオール（ｂ１）の平均官能価が１～８である、請求項１から４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項６】
前記ポリエステルオール（ｂ１）のヒドロキシル価が１０～３００である、請求項１から５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
前記イソシアネート反応性基を有するポリマー化合物（ｂ）の総質量に基づく前記ポリエステルオール（ｂ１）の質量割合が０．１質量％～５０質量％である、請求項１から６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項８】
前記イソシアネート反応性基を有するポリマー化合物（ｂ）がポリエーテルオールを含む、請求項１から７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項９】
前記触媒（ｃ）が組み込み可能なアミン触媒を含み、該組み込み可能なアミン触媒が、イソシアネート反応性基（単数または複数）に加えて１つ以上の第３級脂肪族アミノ基を含む、請求項１から８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１０】
前記ポリウレタンが、前記ポリウレタンが接着結合されているプラスチックを含む複合要素の一部であり、前記複合要素が、請求項１から９のいずれか一項に記載のポリウレタン反応混合物をプラスチックに施与し、それを反応させて前記プラスチック上の前記ポリウレタンを提供することによって得ることができる、請求項１から９のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１１】
前記プラスチックが熱可塑性物質である、請求項１０に記載の方法。
【請求項１２】
ポリウレタンをポリエステルオール（ｂ１）と接触させることを含む、ポリウレタンの製造方法。
【請求項１３】
請求項１から１２のいずれか一項により得ることができるポリウレタン。
【請求項１４】
前記ポリウレタンが自動車内部部品である、請求項１３に記載のポリウレタン。
【請求項１５】
閉鎖空間の内部における、請求項１３または１４に記載のポリウレタンの使用方法。